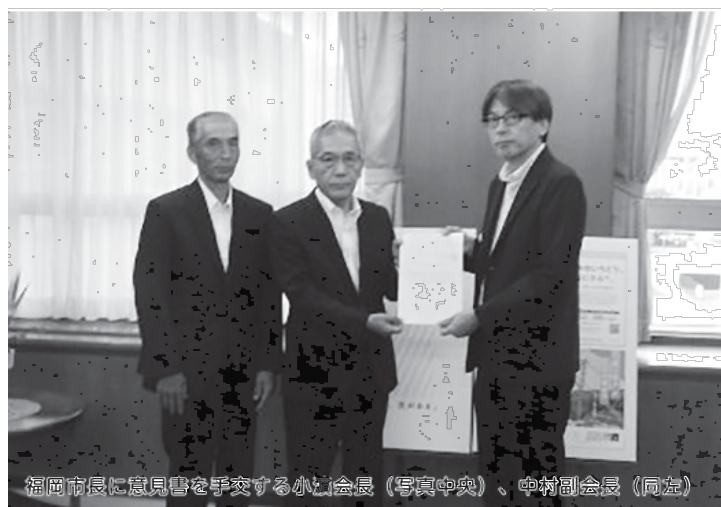




# いばらき 農業委員会だより

第189号  
令和7年9月発行

## 農地等利用最適化に向け 市長に意見書を提出



福岡市長に意見書を手交する小濱会長（写真中央）、中村副会長（同左）

7月31日、農業委員会の小濱会長、中村副会長から福岡市長に対し、「茨木市農地等利用最適化推進施策に関する意見書」を提出しました。あわせて、農業者の後継者不足に集約される様々な課題や近年の農業を取り巻く情勢について、意見交換を行いました。

本意見書は、地域の農業が持続的に発展できるよう農地利用の最適化の推進に向けた施策改善を提言するため、地域の意見を集約し市長に手交しています。

### ● 意見書の主な内容 ●

#### ①農地利用の集積・集約化

農業者の後継者不足のなか、地域農業の担い手となる中心経営体を確保するため、地域農業者の意識醸成を図るとともに、営農組合や集落営農の立ち上げにおける専門的支援を行われたい。

#### ②遊休農地の発生防止・解消

農業委員会が実施する農地パトロールや利用意向調査などの取組と連携し、遊休農地の解消を図られたい。また、農地所有者の管理意識向上のための啓発、指導等を推進されたい。

#### ③新規就農者の参入支援

農業を担う新たな人材を育てるため就農支援塾を開設し、市内での営農を希望する新規就農者が農地を利用しやすくなるよう地域農家制度を運用しているが、新規就農者が地域農業の担い手として定着していけるよう関係機関や団体と連携し支援されたい。

#### ④有害鳥獣等の対策強化

農作物被害軽減のための侵入防止柵の設置・管理についての周知や資材価格高騰に応じた補助拡充のほか、水田等で異常繁殖しているジャンボタニシの被害防除に関する補助を行われたい。

#### ⑤自然災害対策

国の災害復旧事業の対象とならない小規模な畦畔の崩落等の災害においても、市独自の支援策を拡充されたい。

詳しくは  
右図読み込み  
▶▶▶



## 令和7年度 茨木市農林業施策

市では、令和7年度農林業施策関連事業費として、約3億円（農業委員会経費を含む）の予算を確保しており、その中から主な事業をご紹介します。

### ☑ 農の担い手の確保・支援（約2,300万円）

農機具の操作や栽培管理等の知識・技能の修得を支援する「就農支援塾あぐりば」で、新たな農業人材を確保・育成。さらに、農家以外でも農地の貸借が可能となる市独自の「地域農家制度」を着実に運用し新規就農を支援。



### ☑ 遊休農地の解消（約50万円）

実態把握や解消のための調査、指導とともに遊休農地化の未然防止を農業委員会と連携して実施するほか、農地中間管理機構を介した明瞭簡潔な農地貸借を促進。加えて、遊休農地を借り手が復旧するための草刈り等費用の助成も行います。



### ☑ 有害獣対策の実施（約500万円）

有害獣の捕獲活動や侵入防止柵設置等に対する補助の拡充。  
※予算に限りがありますので、すべてのご要望に対応できない可能性があります。



### ☑ 水路や農道の改修工事等（約3,700万円）

農業生産基盤施設の改修・維持工事などに対する補助。

ほかにも、れんげ米栽培等への助成や大阪府エコ農産物栽培認定の取得促進など、安心・安全な農産物栽培への支援や森林整備の推進などの事業を実施しています。

## 令和7年度 農業委員会活動計画を決定

4月24日、福岡市長、福丸市議会議長、西上茨木市農業協同組合代表理事組合長等を来賓に招き、委員総会を開催しました。前年度の活動報告とともに、令和7年度茨木市農業委員会活動計画を以下のとおり議決しました。

### ■ 農地の集積

さらなる効率的な農業経営のため、貸し借りのマッチングによる集積を促進。  
今年度の新規集積目標を0.5ヘクタールに設定。

### ■ 遊休農地の解消

農地パトロールや関係機関との連携により遊休農地の発生防止と解消を図る。  
今年度0.2ヘクタールの解消を目指す。

### ■ 新規参入の促進

新たな担い手の確保・育成により、新規参入を促進する。



総会の様子

## 第49回 農業祭

6万人が訪れる農業の祭典!!  
品評会への申込み受付中!

まちと里山の交流や市内農産物のPRの場として今年も開催します。品評会入賞者には豪華賞品も。ぜひ自慢の野菜をご出品ください。

日時: 11月29日(土) 午前9時30分~午後4時  
(開会式は午前9時~)  
30日(日) 午前9時30分~午後3時  
会場: 茨木市中央公園グラウンド  
(市役所北側)



品評会の申込みは  
10月10日(金)まで  
詳しくはお問い合わせ

農林課  
☎620-1622

だ多たそそんツ採す派左  
さく自のれ味やれたるに右  
いの慢醒はももた喜育さ  
。方の醐農最ハてびっれ虫  
に逸味業高リのはたなや  
自品。者でも新格野が自  
慢を丹だす、鮮別菜ら然  
し、精かよも野でをも環  
てゼ込らねち菜す収、境  
くひめこ。ろは。穫立に

野菜づくりに  
醍醐味を共有



## かいかえのない農地 だからこそ有効活用を!

り農農た卒基あからする  
成業地。業礎ぐりたな  
立者地新。生をり運た  
してとの規就。が約1営め  
いまマ耕農。が1年する  
すマ作農。が1年する  
チン困者。が1年する  
ング難が。が1年する  
によったる



「あぐりば」での様子

「あぐりば」卒業生が  
就農開始



つを者か植不た  
と入か参え使用  
したらは加体  
たはし験の  
感瞬「まに田  
触間田し総ん  
がのんた勢ぼ  
面ムぼ。6で  
白二に参0の  
かユ足加人田

あそびも食育も



田植えイベントの様子

消毒剤等を使わずに土壌改良することや安心・安全なお米の多収量化を目指しています。つくる過程に触れて農業の大切さを感じてほしいですね。



中井推進委員

comment

的場環機のとよ域業のし貴給農らせ関どき米つ  
ま機との境会栽もりの委学のた重の地もらが心「をた  
す能しのが培た、農員習の。なが大が手れが米植  
。が保提過ちた業会田ほ。機会ええの楽い作や「  
発農全供程がく者のな、会さえるのし感のりか「  
揮地やさに米の委員ど、となを食苦み想のた「  
さの学れ触やん指員でもなりじ料労なが興の「  
て面の農る菜こに地農校り供やが寄味なで

農地が支える  
豊かな暮らし



ごおま  
相気ずは  
談軽をに

620-1677